



編集/発行：真岡市教育委員会学校教育課教育政策係
TEL：0285-81-9052 FAX：0285-83-4070

〒321-4395
栃木県真岡市荒町5191番地

★次号「教育委員会だより第11号」は
3月発行予定です

- 目次 P1 小学校創立150周年 P2 子育てコラム 真岡市の文化財 P3 子どもの力を信じ育てる 日本語教室のおしごと P4 学校紹介（中村中学校） 学校における働き方改革



小学校創立150周年を迎えて — 古の学びにタイムスリップ —



真岡市では、今年度、小学校9校が創立150周年という大きな節目を迎えています。現在、市内には小学校が14校設置され、約4,000人の子どもたちが学んでいます。今では、当たり前のように通っている小学校ですが、いつ頃どのように創立されたのでしょうか。

小学校は、今から約150年前、明治時代に入ってから誕生しました。それまでは、「寺子屋」と呼ばれるところで、僧侶や医師など地域の知識人が、近所の子どもたちを中心に、文字の読み書きやそろばんなど生活に必要な内容を、個に応じて教えていました。寺子屋は、庶民の教育の場として大きな役割を担っていましたが、通うことができるのは一部の子どもたちであり、教育の格差は大きかったようです。

その後、明治5年（1872年）、全国一律の近代的な教育制度として「学制」が公布され、寺子屋に代わり各地で小学校の創立が進みました。真岡市では、明治7年に登高学舎、魁明学舎、広業学舎、日新学舎など18校が開校されました。人口を基準とした割り当てよりも設置数が多く、開校に関わる建設費用や授業料等は地域の人々が負担していたことを考えると、当時の真岡の人々の教育に対する熱意や期待の高さがうかがえます。

学制の公布から今日まで、教育に関する様々な法令が出され、現在のような教育制度が整いました。この150年間、保護者や地域の方々の熱意、主役である子どもたちの学ぶ意欲、そして教職員の熱心な指導等が連綿とつながり、市内の小学校が発展してきました。

今から50年後、創立200周年の学校は、どのようになっているのでしょうか。小学校創立150周年という節目に、学校という学びの場があることに感謝し、地域の人々が築いてきた教育に対する熱意のバトンを受け継ぎ、新たな時代に向けてさらに発展させていく必要があります。

真岡市の子どもたちの健やかな成長のために、今後も学校教育へのご理解とご協力をお願いします。



二宮郷土史同好会

会長 伊澤 二郎さん

私が子どもの頃は、田畑が多く、農家では馬を飼い、水車もありました。農繁期には、家の手伝いをするために、学校が半日で終わりになることもありました。

小学校で心に残っていることは、夏には魚を捕る三角網を持って登校し、学校が終わると友達と魚を取りながら川の中を歩いて家まで帰ってきたことです。また、冬には石炭係としてストーブに入れる石炭を運び、マッチで火をつけていました。昼ご飯は、給食と弁当が半々で、給食は脱脂粉乳とコッペパン、弁当はご飯にのり、梅干し、卵焼きと質素なものでした。クラスでは50人が一緒に勉強していました。

学校の先生は厳しかったですが、親も子どもも先生をととても尊敬していました。



東京都練馬区にある唐澤博物館には、真岡に開塾されていた寺子屋「精耕堂」の様子が展示されています



育てることは育つこと 教えることは学ぶこと



真岡市心理相談員
つむらや くみえ
園谷 公美恵先生

最近、ネット依存やゲーム依存等、SNSに関する相談が増えています。便利なものだから……仲間はずれになってはいけないから……。子どもに自由を与えるべきか否か、悩ましい問題だと思います。

私が子どもだった頃、夢中で通った小さな図書館は、住宅地の一画にありました。大人は立ち入り禁止。洋館の一室を埋め尽くす本の中で、子どもたちは静かに、好きな本を好きなだけ読み、借りることもできました。時間がくると、厳かに奥の間に続く扉が開き、大きな古めかしいキャンドルにマッチで灯がともされます。それは、おしゃべりをしてはいけないという合図。薄明かりの中、淡々とした「語り」に耳を傾けるそのひとときは、私にとってかけがえのない宝物でした。

誰に勧められることもなく、自分の感性一つで「好きな本」を選ぶ権利を与えられていたあの時間。幼いながら、お話を壊してはいけないという少しの緊張感と胸をドキドキさせながら語り、に耳を傾けた特別な時間は、私を本好きにさせ、翻訳者……そして後に心理士という、「言葉で人とつながる仕事」を選ぶ原点となったことは間違いありません。



もしかしたら、現代は、子どもたちにとって、本当の「自由」が少ないのかもしれませんが。少子化の影響や世の中が物騒になったことで、常に大人に監視されながら、一方で、ネットの世界ではありとあらゆる情報にさらされている子どもたち。大人に見守られながら、自分の感性一つで「好きな本」を選ぶ権利が与えられていた、あの豊かな時間を思うと、便利すぎる時代を生きる子どもたちの大変さを思わずにはられません。

インターネットやSNSは便利なものであると同時に、内容を問わずに学校や家庭の守りをすり抜け、子どもたちの世界に入り込みます。iPhoneの生みの親であるスティーブ・ジョブズも、マイクロソフトの創業者であるビル・ゲイツも、我が子には14歳までスマホを持たせず、その後も厳しく使用を制限していたのだとか。

子どもたちを守り、本当に豊かな時間を「贈る」ために何をすれば良いのか、今、私たち大人は、真剣に考えていかなければいけないのでしょうか。

— ご相談やご質問がありましたら学校教育課までお問い合わせください —



— 真岡市の文化財 — NO. 7

古墳時代

4世紀から7世紀の約400年間は、有力者のお墓（古墳）がつくられた時代です。真岡市内にも300以上の古墳があります。また、村の跡も多数見つかり、人口が増加し、市内各地で土地の開墾や開発が進んだ時代でした。



神宮寺塚古墳
(根本・市指定)の横穴式石室



鶏塚古墳
(京泉・県指定)出土の埴輪

東京国立博物館所蔵
写真: Colbase
(<https://colbase.niche.go.jp/>)

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	南北朝	室町	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和
紀元 0年				西暦 1000年				西暦 2000年							

子どもの力を信じ育てる 日本語教室のお・し・ご・と



外国人や外国につながるのある子どもたちが日本の社会で生活していくためには日本語を学び、日本の文化や社会への適応力を身に付ける必要があります。

真岡市の学校では、国籍や文化の違いにかかわらず、全ての子どもたちが幸せに生きていけるよう、一人ひとりを大切に育てています。

ここでは、市内に8校ある日本語教室設置校を中心に活躍する教師や支援者、真岡市の外国人児童生徒教育への取組の様子を紹介していきます。

日本語指導助手

真岡市には、30年程前からブラジル連邦共和国やペルー共和国から人々が移り住むようになり、世代を超えて暮らしをつないでいます。学校ではスペイン語・ポルトガル語による支援を2名の指導者を中心に進めています。

藤本 真千子先生は33年、山本 美香先生は19年もの長い間、本市の日本語教室でのお仕事に携わっています。子どもたちや親世代の方々からは「本当の親」のように慕われ、先生方からの信頼も厚く、今では日本語教室にとって、なくてはならない存在になっています。



藤本先生の支援の様子

子どもたちに関わることが好きだから続けています。生徒たちが大人になって立派に生活している様子を見ると幸せを感じます。



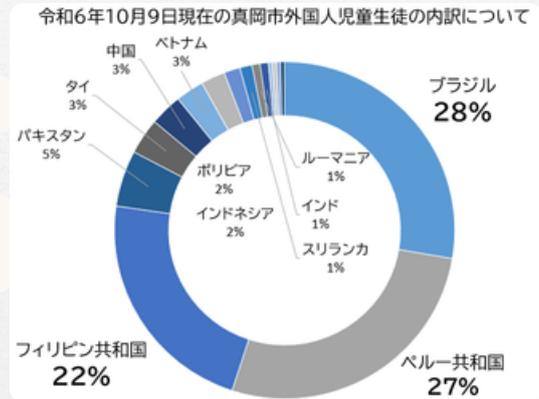
山本先生の支援の様子

他国に移住して暮らす大変さを知っているからこそ、一人でも多くの子どもたちを助けたいです。高校に合格して頑張ってる姿を見るのが喜びです。

日本語支援員

全国の傾向と同じく、本市の子どもの多国籍化、多言語化がこの10年で進んでいます。そのため、学校に支援員を派遣しています。

タガログ語の担当をする椎貝先生をはじめ、中国語の菱沼先生、ウルドゥ語のビンセント先生、タイ語の黒田先生、インドネシア語の熊田先生、ベトナム語の手塚先生など、多くの支援員が、子どもたちの学びや先生と保護者の対話を支えています。



日本語初期指導員

日本語を身に付けていないまま来日し、学校で学ぶ子どもたちがいます。子どもと学校を支援するため、本年度から指導員の派遣を始めました。

指導員は子どもたちが一日でも早く日本の言葉と文化に慣れて友達と一緒に生活できるよう親身になって支援をしています。



手塚先生の支援の様子

子どもが自分からたくさん喋りながら学んでもらえるよう、工夫をして支援に取り組んでいます。自信をもって新しい世界に飛び出せるよう、手助けしたいです。

取材で印象的だったのは、子どもたちに日々接する支援者の優しい眼差しと、懸命に日本語を学ぶ子どもたちの真剣な眼差しでした。

どの空の下に生きる子どもも「伸びたい」「できるようになりたい」という気持ちは同じです。その思いに日本人と外国人という区別は意味を成さないでしょう。

今回紹介した支援者と協働している教師たちも、日々試行錯誤をしながら子どもたちのために奮闘しています。真岡市では今後も日本語教室、外国人児童生徒教育の充実を目指し、教育環境や人材、支援の充実を図っていきたくと考えています。



中村中学校

— 教育目標 —

- 自主 自主的に学習し生活する
- 創造 発想を広げ創意工夫する
- 奉仕 広い視野に立って、思いやりの心（愛）で行動する



中村中のHP



旧校舎（昭和46年頃）

中村中学校では「自主」「創造」「奉仕」を学校目標とし、すべての生徒が認め合い、高め合える学校を目指しています。昭和47年から53年目を迎えたクリーン修学旅行では、比叡山延暦寺で清掃活動を行ったり、お世話になった訪問先に生徒の手縫いの雑巾を寄付したりしています。また、令和5・6年度の2年間、真岡市教育委員会指定研究推進校として確かな学力の育成に取り組み、「自分の言葉で伝え合う生徒の育成」をテーマに、多様な意見が適切な表現で飛び交う授業を目指してきました。さらに、今年度から中村中学校区で学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなりました。学校・家庭・地域が連携し、地域とともにある学校づくりを推進しています。父親の会（NFA）や各ボランティアの活動が盛んで、2月に防災キャンプを実施する予定です。



クリーン修学旅行



姉妹校交流



ローテーション担任（※）

※全学年の先生が共同で担任をします。



「表現力」の育成



学校運営協議会



NFAの活動（かき氷配布）



地域の方による御輿指導



交通安全パレードへの参加

—学校における働き方改革を推進しています—



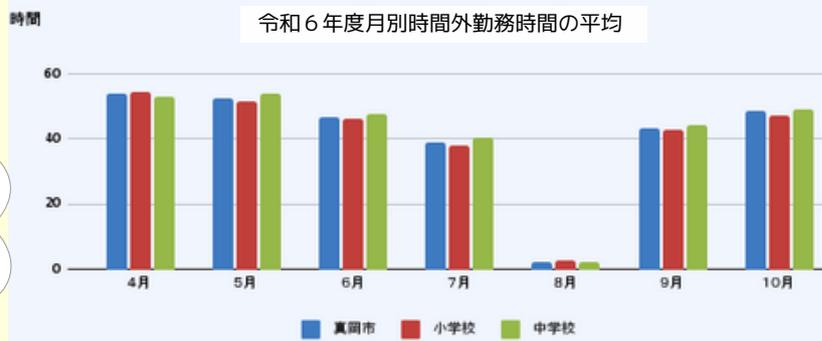
真岡市の学校における働き方改革はこちら



真岡市教育委員会では、「働き方改革推進委員会」を開催し、推進委員の校長先生方とともに、時間外勤務の状況や取組の成果と課題について協議しています。教員の心身の健康を保持し、子どもたちと十分に向き合う時間を確保することにつなげています。

働き方改革推進委員会 で話し合われた主な内容

- ◎ eメッセージの導入
- ・一斉連絡システム eメッセージの良さや改善点について
- ◎ 勤務時間外の電話対応
- ・自動音声による応答の導入について



休み時間の様子



授業づくりの様子

もう一步努力するところ

おもいやりのところ

かんじ、考え、学ぼうとするところ



皆様のご意見、ご感想をお寄せください
アンケートはこちらから！

